

県民歯科疾患実態調査

(平成 28 年 11 月調査)

三 重 県

平成 29 年 3 月

目 次

I	調査の概要	- 1 -
1.	調査の目的	- 1 -
2.	調査の対象	- 1 -
3.	調査時期	- 1 -
4.	主な調査事項	- 1 -
5.	調査の方法	- 1 -
II	調査結果の概要	- 3 -
1.	概説	- 3 -
2.	調査対象者数	- 4 -
3.	質問票調査	- 5 -
1)	現在の就学・就業状況	- 5 -
2)	勤務形態	- 5 -
3)	労働時間	- 6 -
4)	世帯構成	- 7 -
5)	世帯人数	- 8 -
6)	自覚的保有歯数	- 8 -
7)	主観的な口腔健康状態	- 9 -
8)	口腔の健康習慣	- 10 -
9)	喫煙習慣および受動喫煙の程度	- 12 -
1 0)	歯科受療行動	- 13 -
1 1)	主観的な健康状態	- 14 -
1 2)	8020 運動の認知	- 15 -
1 3)	口腔清掃状況と肺炎の罹患の関係に関する認知	- 15 -
1 4)	フッ化物の塗布を受けた者	- 16 -
1 5)	趣味の有無	- 16 -
4.	口腔内状況	- 17 -
1)	う蝕有病者率と処置状況	- 17 -
2)	一人平均う歯数 (DMFT)	- 17 -
3)	喪失歯	- 18 -
3-1)	喪失歯のない人の割合	- 19 -
4)	20 歯以上自分の歯を有する人の割合	- 19 -
5)	24 歯以上自分の歯を有する人の割合	- 20 -
6)	歯肉出血のある人の割合	- 21 -
7)	歯周ポケットの内訳	- 22 -
III	診査基準	- 24 -

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、三重県の健康づくり総合推進事業の一環として、県民の歯科口腔保健の状況を把握し、「健康日本21」の地方計画である「三重の健康づくり基本計画」の中間評価及び歯科口腔保健単独の計画である「みえ歯と口腔の健康づくり基本計画」の最終評価並びに次期計画策定を行うための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象

調査対象者は、平成28年11月1日の住民基本台帳に基づき抽出した。あらかじめ、県内全29市町の人口の比率に従い標本数5,000を割り当てたうえで、各市町において住民基本台帳を使用して等間隔無作為抽出により、それぞれ20～24歳、40～44歳、60～64歳、80～84歳から抽出し調査客体とした。なお、対象人数については、前回のアンケート回収率をふまえて3,000名から5,000名とした。

3. 調査時期

(アンケート調査)

平成28年11月17日から12月22日までの36日間。

(口腔診査)

同年11月又は12月のうち5日間。

4. 主な調査事項

(アンケート調査)

別紙1参照。

(口腔診査)

歯の状況、補綴の状況、歯肉の状況、咬合の状況、歯や口の清掃状況。

5. 調査の方法

(アンケート調査)

調査対象者5,000名に調査票を郵送し、対象者に記入後返送してもらう郵送調査法により実施した。調査票回収期間の中間(平成28年11月中旬)には、調査対象者全員に対して、再度調査協力依頼ハガキを送付した。

(口腔診査)

桑員、四日市、鈴鹿、亀山、津、松阪、伊勢、鳥羽志摩、尾鷲、南紀、伊賀の11地区の各会場において実施した。本調査のアンケート調査に協力いた

だくとともに、口腔診査に協力の意向が得られ、審査の会場に来場した被調査者を対象に実施した。

II 調査結果の概要

1. 概説

- ①有効回答者数は1,801名(36%)であった。その内訳は、男性821名、女性980名となった。そのうち、口腔診査に参加した者は男性127名、女性153名、合計280名であった。
- ②男女とも20-24歳は学生が最も多く、40-44歳の男性では専門職の勤労者または労務・販売・保安・サービス業の勤労者が、女性ではパート・アルバイトが最も多かった。60-64歳の男性では無職、専門職の勤労者が多く、女性では無職が多かった。
- ③世帯構成は男女共に20-24、40-44歳で2世代(子どもと夫婦)が最も多く、80-84歳の男性では夫婦のみが約半数であった。一方女性では、60-64歳では夫婦のみの割合が高かったが、80-84歳では一人暮らしが多かった。
- ④自覚的保有歯数は、男性の60-64歳で22.7本、80-84歳で12.2本であった。一方、女性では60-64歳で23.2本、80-84歳で13.2本であった。
- ⑤「口臭が気になる」人の割合は、40歳以降に増え、40-44歳では男性で24.6%、女性では18.3%であった。
- ⑥なんでも食べることができると答えた者は60-64歳では男性86.8%、女性88.9%であり、80-84歳では男性76.6%、女性80.3%であった。
- ⑦歯間清掃用具を使用していると答えた者は、回答者全体の40.3%であった。
- ⑧現在喫煙していると回答した者は、男女共に40-44歳が最も多く、それぞれ29.6%および6.8%であった。
- ⑨かかりつけ歯科医がいると回答された者は、全回答者のうち75.6%であった。
- ⑩過去半年以内に専門的な歯みがき指導を受けた者は、全体のうち35.3%であった。
- ⑪過去1年間以内に歯科健診を受けた者は、全回答者のうち、55.5%であった。
- ⑫8020運動を知っていると回答した者は、全回答者のうち、47.3%であった。
- ⑬口腔の不衛生が肺炎を引き起こしやすいことを知っているとは回答した者は、80-84歳では男性54.9%、女性57.9%であった。
- ⑭う蝕有病者率は96.4%であった。未処置歯を有する人の割合は、40-44歳では22.7%、60-64歳では27.0%であった。
- ⑮喪失歯のない人の割合は、20-24歳では97.5%、40-44歳では91.8%であったが、60-64歳で急激に減少していた。
- ⑯20歯以上自分の歯を有する人の割合は、60-64歳では95.5%、80-84歳では65.6%であった。
- ⑰24歯以上自分の歯を有する人の割合は、60-64歳では81.1%、80-84歳では31.3%であった。
- ⑱歯肉出血のある人の割合は、20-24歳で32.5%、40-44歳で35.1%、60-64歳で47.8%、80-84歳で53.1%であった。
- ⑲進行した歯周疾患(ポケット4~5mm以上)を有する人の割合は、40-44歳で28.9%、60-64歳で64.0%であった。

2. 調査対象者数

調査票に回答された者は 1,996 名であった。そのうち、調査客体の基準を満たし、かつ性、年齢の記入者を有効回答とした。有効回答者数は 1,801 名 (36.0%) であった。その内訳は、男性 821 名 (45.6%)、女性 980 名 (54.4%) であった (表 1、図 1)

20 から 24 歳、40 から 44 歳、60 から 64 歳、80 から 84 歳の 4 群に分けて調査を行った。そのうち、口腔診査に参加した者は男性 127 名、女性 153 名、合計 280 名 (5.6%) であった。

表 1 被調査者数

年齢層	男性		女性	
	調査票回答者 (%)	口腔診査受診者 (%)	調査票回答者 (%)	口腔診査受診者 (%)
20-24	123 (15.0)	17 (13.4)	159 (16.2)	23 (15.0)
40-44	203 (24.7)	30 (23.6)	322 (32.9)	67 (43.8)
60-64	311 (37.9)	60 (47.2)	316 (32.2)	51 (33.3)
80-84	184 (22.4)	20 (15.8)	183 (18.7)	12 (7.8)
総数	821	127	980	153

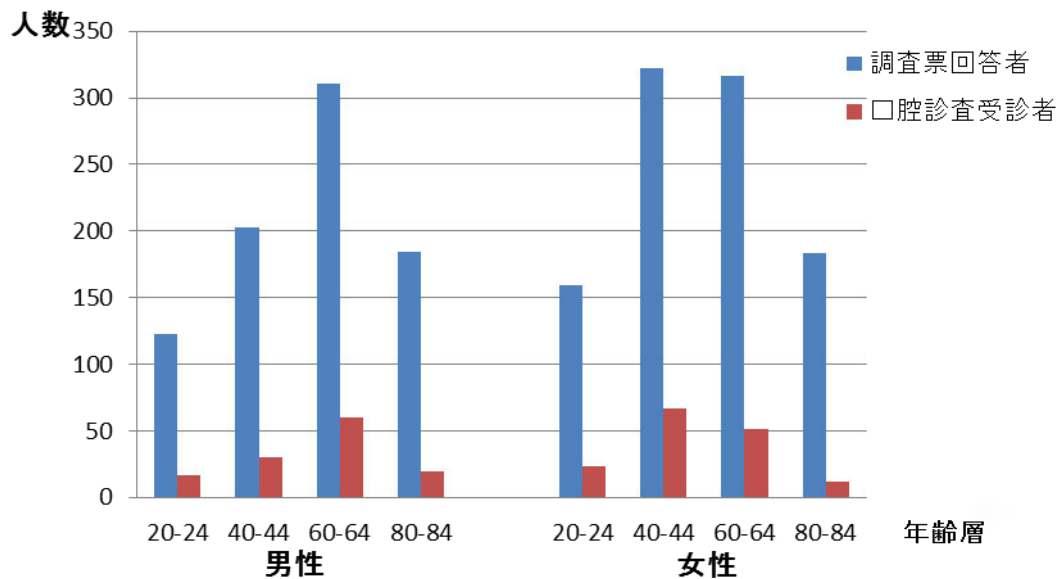


図 1 調査対象者数の分布

3. 質問票調査

1) 現在の就学・就業状況

男女とも 20-24 歳は学生が最も多く、40-44 歳の男性では専門職の勤労者または労務・販売・保安・サービス業の勤労者が、女性ではパート・アルバイトまたは無職が最も多かった（表 2）。60-64 歳の男性では無職、専門職の勤労者が多く、女性では無職またはパート・アルバイトが多かった。80-84 歳では男女とも無職が多かった。

表 2 現在の就学・就業状況

	男性				女性			
	20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
総数	123	203	311	184	159	322	316	183
1 農林漁業および家族従事者	0	2	10	11	0	2	9	5
2 事務職の勤労者	7	24	26	1	25	58	15	0
3 労務・販売・保安・サービス業の勤労者	13	43	37	2	26	14	11	0
4 専門職の勤労者	20	68	52	2	25	47	14	0
5 管理職の勤労者	1	18	25	2	0	4	1	0
6 会社・団体の役員・経営者	1	12	20	4	2	5	5	1
7 商業・工業・サービス業等個人経営者およびその家族従事者	3	16	13	2	0	9	14	3
8 自由業	0	4	12	7	0	0	7	3
9 パート・アルバイト	5	4	42	0	22	116	88	2
10 学生（浪人を含む）	63	0	0	0	45	0	1	0
11 無職（家事に従事する場合を含む）	2	6	60	136	12	64	141	143
12 その他	5	4	7	0	1	1	0	0
うち生産工程	3	3	4	0	0	1	0	0
建設・採掘	0	1	0	0	0	0	0	0
輸送・運搬	0	0	3	0	0	0	0	0
無回答/分類不能	3	2	7	17	1	1	10	26

（一部重複回答者を含む）

2) 勤務形態

20-24 歳において男女ともに日勤または収入を伴う仕事をしていないと回答した者が多かった（表 3）。40-44 歳および 60-64 歳においては、男女共に日勤のみと回答した者が過半数を占めた。80-84 歳においては、男女共に収入を伴う仕事はしていないと回答した者が多数であった。

表3 勤務形態

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
1 日勤のみ	n	51	157	213	7	83	229	139	4
	%	41.5	77.3	68.5	3.8	52.2	71.1	44.0	2.2
2 夜勤のみ	n	4	4	5	0	0	2	2	0
	%	3.3	2.0	1.6	0	0	0.6	0.6	0
3 交代性勤務(日勤および夜勤)	n	16	25	14	1	15	8	7	0
	%	13.0	12.3	4.5	0.5	9.4	2.5	2.2	0
4 交代性勤務(分類できない勤務形態)	n	8	9	8	1	10	15	9	1
	%	6.5	4.4	2.6	0.5	6.3	4.7	2.9	0.6
5 収入を伴う仕事はしていない	n	23	2	41	74	28	35	55	74
	%	18.7	1.0	13.2	40.2	17.6	10.9	17.4	40.4
無回答	n	21	6	30	101	23	33	104	104
	%	17.1	3.0	9.7	54.9	14.5	10.3	32.9	56.8
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

3) 労働時間

回答者のうち、男性の40-44歳を除いた約11~23%、女性の約7~20%が、最近1か月間で収入を伴う仕事なかったと回答した(表4)。

表4 最近1か月での収入を伴う労働時間の回答者の割合

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
被調査数		123	203	311	184	159	322	316	183
収入を伴う	n	17	0	35	43	18	23	43	36
仕事がない	%	13.8	0	11.3	23.4	11.3	7.1	13.6	19.7
無回答	n	27	9	39	128	33	47	113	141
	%	22.0	4.4	12.5	69.6	20.8	14.6	35.8	77.1

最近1か月間で収入を伴う仕事なかったと回答した者および無回答者を除き、各年齢層で労働時間の平均値とその標準偏差を算出した(表5)。

男性では40-44歳において平均労働時間が9.4時間と最も長く、女性においては20-24歳で平均労働時間が7.7時間と最も長かった(表5、図2)

表5 労働時間の平均値

	男性				女性			
	20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
人数	79	194	237	13	108	252	160	6

平均値	7.9	9.4	8.2	6.9	7.7	7.1	6.4	4.8
標準偏差	2.2	1.8	1.9	2.7	1.6	2.2	2.3	2.0

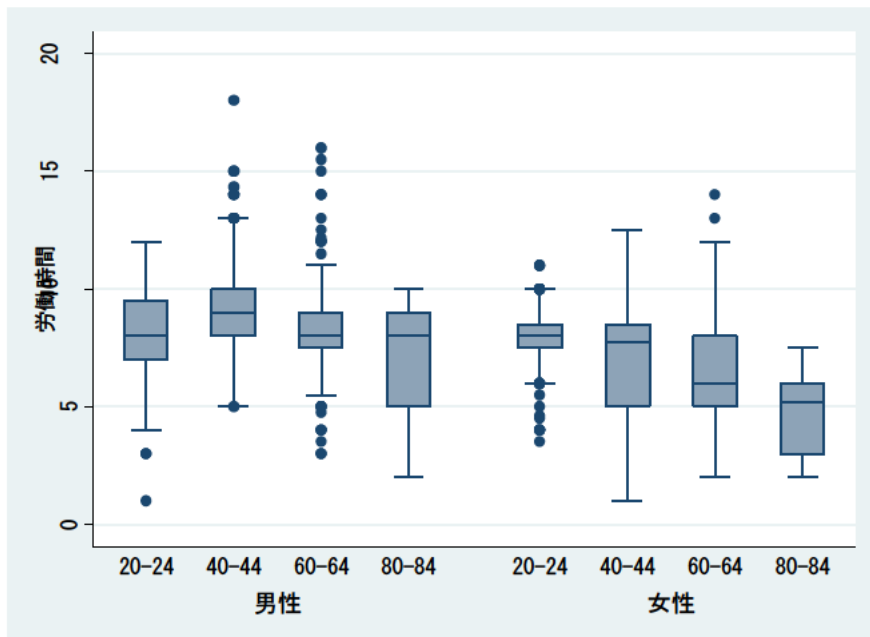


図2 性・年齢層別労働時間の分布

4) 世帯構成

世帯構成は男女共に 20-24、40-44 歳で 2 世代（子どもと夫婦）が最も多く、80-84 歳の男性では夫婦のみが約半数であった（表 6）。一方女性では、60-64 歳では夫婦のみの割合が高かったが、80-84 歳では一人暮らしが多かった。

表 6 世帯構成

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
1 一人暮らし	n	27	15	23	18	25	8	30	55
	%	22.0	7.4	7.4	9.8	15.7	2.5	9.5	30.1
2 夫婦のみ	n	1	17	116	108	6	18	139	45
	%	0.8	8.4	37.3	58.7	3.8	5.6	44.0	24.6
3 2 世代（例：子どもと夫婦）	n	68	131	125	39	89	226	108	51
	%	55.3	64.5	40.2	21.2	56.0	70.2	34.2	27.9
4 3 世代（例：子どもと夫婦とその両親）	n	23	34	38	14	34	61	35	19
	%	18.7	16.8	12.2	7.6	21.4	18.9	11.1	10.4
5 その他	n	2	2	6	3	1	5	4	6
	%	1.6	1.0	1.9	1.6	0.6	1.6	1.3	3.3

無回答	n	2	4	3	2	4	4	0	7
	%	1.6	2.0	1.0	1.1	2.5	1.2	0.0	3.8
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

5) 世帯人数

世帯人数は男女共に20-24、40-44歳で3~4人が最も多かった。男性の60-64歳では3~4人が多いものの、80-84歳では約半数が2人と回答した(表7)。一方女性では、60-64歳および80-84歳において2人と回答した割合が高かった。

表7 世帯人数

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
1 1人	n	27	16	26	16	20	8	27	51
	%	22.0	7.9	8.4	8.7	12.6	2.5	8.5	27.9
2 2人	n	4	23	120	103	11	32	154	59
	%	3.3	11.3	38.6	56.0	6.9	9.9	48.7	32.2
3 3~4人	n	59	116	137	31	82	190	105	38
	%	48.0	57.1	44.1	16.9	51.6	59.0	33.2	20.8
4 5人以上	n	31	46	26	25	43	90	29	25
	%	25.2	22.7	8.4	13.6	27.0	28.0	9.2	13.7
無回答/その他	n	2	2	2	9	3	2	1	10
	%	1.6	1.0	0.6	4.9	1.9	0.6	0.3	5.4
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

6) 自覚的保有歯数

無回答者を除き、各年齢層で自覚的保有歯数の平均値等を算出した(表8)。

男女共に20-24歳、40-44歳では自覚的保有歯数の平均値は約27本であったが、男性の60-64歳で22.7本、80-84歳で12.2本であった(表8、図3)。一方、女性では60-64歳で23.2本、80-84歳で13.2本であった。

表8 自覚的保有歯数の平均値

	男性				女性			
	20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
人数	119	198	302	170	155	316	310	177
平均値	27.7	26.8	22.7	12.2	27.7	27.2	23.2	13.2
標準偏差	1.5	4.0	6.6	10.2	2.5	2.7	5.7	10.2
中央値	28	28	25	12	28	28	25	14
四分位範囲	28-28	27-28	20-27	2-22	28-28	27-28	21-28	2-22

(無回答者を除く)

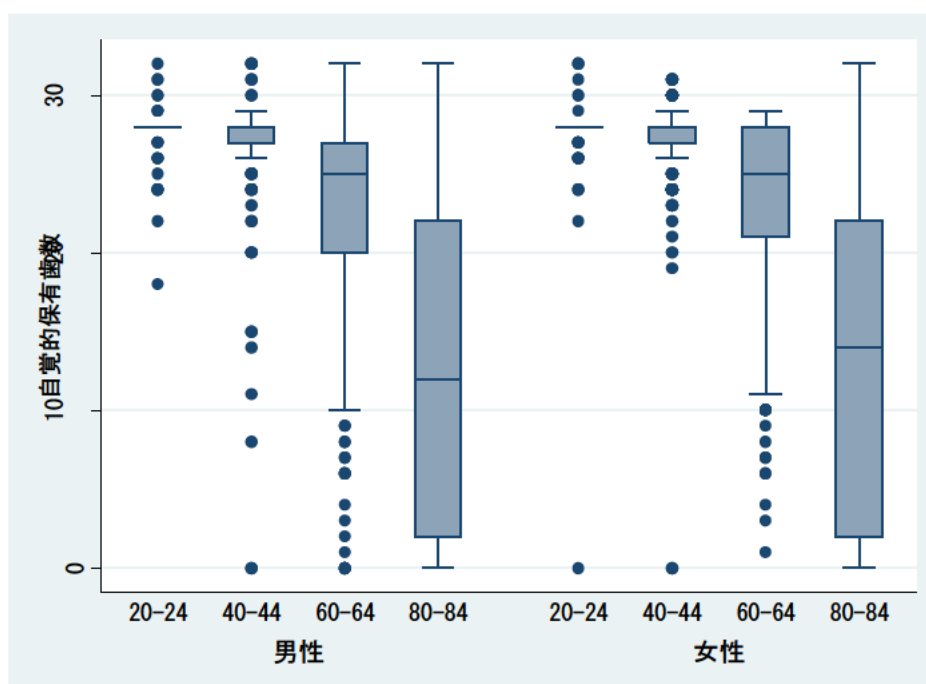


図3 性・年齢層別自覚的保有歯数の分布

男女共に20-24、40-44歳では20本以上と回答した者が9割以上であったが、60-64歳では約7割となり、80-84歳では3割であった(表9)。80歳で20本以上を達成していると考えられる者は、男性で31.5%、女性で34.4%であった。

表9 自覚的保有歯数の割合

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
0本	n	0	2	5	39	1	2	0	34
	%	0	1.0	1.6	21.2	0.6	0.6	0	18.6
1～9本	n	0	1	15	39	0	0	9	39
	%	0	0.5	4.8	21.2	0	0	2.9	21.3
10～19本	n	1	4	49	34	0	1	51	41
	%	0.8	2.0	15.8	18.5	0	0.3	16.1	22.4
20本以上	n	118	191	233	58	154	313	250	63
	%	95.9	94.1	74.9	31.5	96.9	97.2	79.1	34.4
無回答	n	4	5	9	14	4	6	6	6
	%	3.3	2.5	2.9	7.6	2.5	1.9	1.9	3.3
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

7) 主観的な口腔健康状態

口腔健康状態(歯がしみる、歯ぐきから血が出るなど)8つの質問項目に対し

当てはまるものがないと回答された者は、男性で約 41～56%、女性で約 40～59% であり、男性の 20-24 歳、女性の 80-84 歳で最も高く、男女共に 60-64 歳で最も低かった（表 1 9）。

男性の 20-24 歳では「歯ぐきから血が出る」（11.4%）、40-44 歳および 60-64 歳では「口臭が気になる」（24.6%および 25.7%）、80-84 歳では「口臭が気になる」（16.3%）および「歯に違和感がある」（16.3%）が最も高かった。

一方女性では、20-24 歳および 40-44 歳において「歯がしみる」（18.2%および 21.4%）、60-64 歳および 80-84 歳で「口臭が気になる」（26.3%および 10.4%）が最も高かった。男女とも「口臭が気になる」人の割合は、40 歳以降に増えていた。

表 1 0 主観的な口腔健康状態

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
被調査人数		123	203	311	184	159	322	316	183
1 歯がしみる	n	14	48	41	6	29	69	63	8
	%	11.4	23.7	13.2	3.3	18.2	21.4	19.9	4.4
2 歯が痛い	n	10	7	19	10	12	23	14	9
	%	8.1	3.5	6.1	5.4	7.6	7.1	4.4	4.9
3 歯が浮く	n	0	10	24	15	3	14	17	5
	%	0	4.9	7.7	8.2	1.9	4.4	5.4	2.7
4 歯に違和感がある	n	6	11	37	30	10	30	30	26
	%	4.9	5.4	11.9	16.3	6.3	9.3	9.5	14.2
5 歯ぐきから血が出る	n	21	37	44	12	27	56	36	3
	%	17.1	18.2	14.2	6.5	17.0	17.4	11.4	1.6
6 歯ぐきが腫れる	n	8	13	46	22	11	27	52	14
	%	6.5	6.4	14.8	12.0	6.9	8.4	16.5	7.7
7 歯ぐきが痛い	n	6	7	23	25	6	11	18	12
	%	4.9	3.5	7.4	13.6	3.8	3.4	5.7	6.6
8 口臭が気になる	n	11	50	80	30	16	59	83	19
	%	8.9	24.6	25.7	16.3	10.1	18.3	26.3	10.4
9 当てはまるものがない	n	69	85	127	85	82	134	125	107
	%	56.1	41.9	40.8	46.2	51.6	41.6	39.6	58.5
無回答	n	2	4	8	14	3	2	5	18
	%	1.6	2.0	2.6	7.6	1.9	0.6	1.6	9.8

（重複回答者を含む）

8) 口腔の健康習慣

間食をすると回答した者は男性全体で約 36～54%、女性全体で約 48～74% であった（表 1 1）。なんでも食べることができると答えた者は 20-24 歳および 40-44 歳において、男女とも 95%以上であったが、60-60 歳では男性 86.8%、

女性 88.9%であり、80-84 歳では男性 76.6%、女性 80.3%であった。

歯磨きをする頻度は、男女とも 2 回と回答された者が最も多く、80-84 歳を除くすべての年齢層で過半数を占めた（表 1 1）。フッ素入り歯みがき剤を使用していると答えた者は、男性全体で約 36~43%、女性全体で約 33~58%に認められた。

歯間清掃用具を使用していると答えた者は、男女ともに 60-64 歳が最多で、男性で 40.2%、女性で 59.2%であった（表 1 1）。全体のうち 40.3%（727 名）が歯間部清掃用具を使用していると回答した。

表 1 1 口腔の健康習慣の内容

			男性				女性			
			20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
問 5 間食をよく しますか。	はい	n	66	101	113	86	116	238	193	88
		%	53.7	49.8	36.3	46.7	73.0	73.9	61.1	48.1
	いいえ	n	57	102	194	95	43	84	121	89
		%	46.3	50.3	62.4	51.6	27.0	26.1	38.3	48.6
	無回答/ 分類不能	n	0	0	4	3	0	0	2	6
		%	0	0	1.3	1.6	0	0	0.6	3.3
問 6 なんでも嚙 んで食べること ができますか。	はい	n	119	193	270	141	156	313	281	147
		%	96.8	95.1	86.8	76.6	98.1	97.2	88.9	80.3
	いいえ	n	4	10	39	41	3	9	33	35
		%	3.3	4.9	12.5	22.3	1.9	2.8	10.4	19.1
	無回答	n	0	0	2	2	0	0	2	1
		%	0	0	0.6	1.1	0	0	0.6	0.6
問 7 1日に何回 歯みがきをしま すか。	0.0回	n	0	0	0	1	0	0	0	0
		%	0	0	0	0.5	0	0	0	0
	1.1回	n	28	56	103	80	24	24	38	45
		%	22.8	27.6	33.1	43.5	15.1	7.5	12.0	24.6
	2.2回	n	87	113	159	66	102	181	201	84
		%	70.7	55.7	51.1	35.9	64.2	56.2	63.6	45.9
	3.3回	n	8	34	45	30	33	117	76	47
		%	6.5	16.6	14.5	16.3	20.8	36.3	24.1	25.7
無回答/ 分類不能	n	0	0	4	7	0	0	1	7	
	%	0	0	1.3	3.8	0	0	0.3	3.8	
問 9 歯みがき剤 を使用していま すか。	フッ素入りを 使用	n	47	88	111	76	60	185	145	61
		%	38.2	43.4	35.7	41.3	37.7	57.5	45.9	33.3
	フッ素がない ものを使用	n	9	27	27	16	12	34	39	16
		%	7.3	13.3	8.7	8.7	7.6	10.6	12.3	8.7
	何かわから ないが使用 している	n	64	78	159	59	85	100	123	72
		%	52.0	38.4	51.1	32.1	53.5	31.1	38.9	39.3
	使っていない	n	3	7	7	30	1	3	5	26
		%	2.4	3.5	2.3	16.3	0.6	0.9	1.6	14.2

	無回答	n	0	3	7	3	1	0	4	8
		%	0	1.5	2.3	1.6	0.6	0	1.3	4.4
問10 現在、歯 ブラシ以外にデ ンタルフロスや 歯間ブラシ等の 歯間清掃用具を 使用しています か。	はい	n	17	71	125	58	28	177	187	64
		%	13.8	35.0	40.2	31.5	17.6	55.0	59.2	35.0
	いいえ	n	106	132	185	120	131	145	129	113
		%	86.2	65.0	59.5	65.2	82.4	45.0	40.8	61.8
	無回答	n	0	0	1	6	0	0	0	6
		%	0	0	0.32	3.3	0	0	0	3.3

9) 喫煙習慣および受動喫煙の程度

現在喫煙していると回答した者は、男性では20-24歳で20.3%、40-44歳で29.6%、60-64歳で26.7%、80-84歳で7.6%であった(表12)。一方女性では、20-24歳で5.0%、40-44歳で6.8%、60-64歳で3.8%、80-84歳で1.1%であった。

表12 喫煙習慣

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
1 現在吸っている	n	25	60	83	14	8	22	12	2
	%	20.3	29.6	26.7	7.6	5.0	6.8	3.8	1.1
2 過去に吸っていた	n	8	71	167	119	4	55	26	16
	%	6.5	35.0	53.7	64.7	2.5	17.1	8.2	8.7
3 吸ったことがない	n	90	72	58	50	147	245	278	160
	%	73.2	35.5	18.7	27.2	92.5	76.1	88.0	87.4
無回答	n	0	0	3	1	0	0	0	5
	%	0	0	1.0	0.5	0	0	0	2.7
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

周囲でたばこを吸っている人として、男性の20-24歳および80-84歳では友人(42.3%および12.5%)、40-44歳および60-64歳では職場の仲間(65.5%および45.0%)を最も多く挙げていた(表13)。一方、女性の20-24歳では父・母(32.7%)、40-44歳では職場の仲間(28.3%)、60-64歳および80-84歳ではその他(33.5%および13.1%)を最も多く挙げていた。

表13 受動喫煙の程度

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
総数		123	203	311	184	159	322	316	183
1 吸っている人は いない	n	26	47	102	133	51	128	158	140

	%	21.1	23.2	32.8	72.3	32.1	39.8	50.0	76.5
2 父・母	n	47	23	8	1	52	49	4	0
	%	38.2	11.3	2.6	0.5	32.7	15.2	1.3	0
3 兄弟・姉妹	n	11	16	24	7	14	36	15	5
	%	8.9	7.9	7.7	3.8	8.8	11.2	4.8	2.7
4 祖父・祖母	n	7	3	1	1	8	5	2	1
	%	5.7	1.5	0.3	0.5	5.0	1.6	0.6	0.6
5 恋人	n	1	2	0	1	11	15	1	0
	%	0.8	1.0	0	0.5	6.9	4.7	0.3	0
6 友人	n	52	55	67	23	36	33	17	1
	%	42.3	27.1	21.5	12.5	22.6	10.3	5.4	0.6
7 職場の仲間	n	46	133	140	9	51	91	33	0
	%	37.4	65.5	45.0	4.9	32.1	28.3	10.4	0
8 クラブ・サークル の仲間	n	11	9	18	7	5	10	8	1
	%	8.9	4.4	5.8	3.8	3.1	3.1	2.5	0.6
9 その他	n	4	8	36	15	8	48	106	24
	%	3.3	3.9	11.6	8.2	5.0	14.9	33.5	13.1
無回答	n	2	1	6	9	1	1	6	13
	%	1.6	0.5	1.9	4.9	0.6	0.3	1.9	7.1

10) 歯科受療行動

歯の治療を早めに受けると回答された者の割合は、男性の20-24歳で55.3%、40-44歳で53.2%、60-64歳で63.3%、80-84歳で66.9%であった(表14)。一方、女性は、全年齢層で男性より多く、20-24歳で59.1%、40-44歳で63.7%、60-64歳で73.1%、80-84歳で70.5%であった。

かかりつけ歯科医がいると回答された者の割合は、男女共に全ての年齢層で過半数を超え、女性は、男性より多い傾向がみられた(男性の20-24歳で56.1%、40-44歳で65.0%、60-64歳で75.6%、80-84歳で81.0%であり、女性の20-24歳で62.3%、40-44歳で80.1%、60-64歳で86.4%、80-84歳で80.3%(表14)。全体では75.6%(1,362名)であった。

過去半年以内に専門的な歯みがき指導を受けた者の割合は、男性全体で約23~39%であり、60-64歳代で最も多く受けたと回答された(38.9%)(表14)。一方女性では、約28~42%であり、やはり60-64歳代が最も多く回答された(42.1%)。回答者全体のうち、35.3%(635名)が受けたと答えた。

過去1年間以内に歯科健診を受けたと回答された者は、男性の20-24歳の回答者のうち39.8%、40-44歳のうち43.8%、60-64歳のうち57.2%、80-84歳のうち53.3%の割合でみられた(表14)。女性は男性より比較的高く、20-24歳の48.4%、40-44歳の64.9%、60-64歳の65.8%、80-84歳の49.7%が、歯科健診を受けたと回答されていた。全回答者のうち、55.5%(999名)が歯科検診を受けていた。

表 1 4 歯科受療行動の内容

		男性				女性				
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84	
問 8 歯の治療は 早めに受けるよ うにしています か。	はい	n	68	108	197	123	94	205	231	129
		%	55.3	53.2	63.3	66.9	59.1	63.7	73.1	70.5
	いいえ	n	55	95	111	48	62	115	83	38
		%	44.7	46.8	35.7	26.1	39.0	35.7	26.3	20.8
	無回答	n	0	0	3	13	3	2	2	16
		%	0	0	1.0	7.1	1.9	0.6	0.6	8.7
問 1 1 現在、か かりつけの歯医 者さんはいます か。	はい	n	69	132	235	149	99	258	273	147
		%	56.1	65.0	75.6	81.0	62.3	80.1	86.4	80.3
	いいえ	n	53	71	75	33	60	64	43	30
		%	43.1	35.0	24.1	17.9	37.7	19.9	13.6	16.4
	無回答	n	1	0	1	2	0	0	0	6
		%	0.8	0	0.3	1.1	0	0	0	3.3
問 1 2 過去半年 以内の間に、歯科 医師、歯科衛生士 から歯みがき指 導を受けたこと がありますか。	はい	n	28	62	121	67	44	124	133	56
		%	22.8	30.5	38.9	36.4	27.7	38.5	42.1	30.6
	いいえ	n	88	138	186	107	111	197	179	114
		%	71.5	68.0	59.8	58.2	69.8	61.2	56.7	62.3
	わからない	n	7	3	3	5	3	1	3	6
		%	5.7	1.5	1.0	2.7	1.9	0.3	1.0	3.3
無回答	n	0	0	1	5	1	0	1	7	
	%	0	0	0.3	2.7	0.6	0	0.3	3.8	
問 1 3 過去 1 年 以内の間に、歯科 医院や職場・学校 等で 1 回以上歯 科健診を受けま したか。	はい	n	49	89	178	98	77	209	208	91
		%	39.8	43.8	57.2	53.3	48.4	64.9	65.8	49.7
	いいえ	n	71	113	131	77	77	109	107	87
		%	57.7	55.7	42.1	41.9	48.4	33.9	33.9	47.5
	わからない	n	3	1	1	3	4	3	0	1
		%	2.4	0.5	0.3	1.6	2.5	0.9	0	0.6
無回答	n	0	0	1	6	1	1	1	4	
	%	0	0	0.3	3.3	0.6	0.3	0.3	2.2	

1 1) 主観的な健康状態

主観的な健康状態については、男女共に全ての年齢層の約 7 割以上で、「非常に健康」もしくは「健康な方だと思う」と回答された (表 1 5)。

表 1 5 主観的な健康状態

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
1 非常に健康	n	20	20	12	17	35	32	16	8
	%	16.3	9.9	3.9	9.2	22.0	9.9	5.1	4.4

2 健康な方だと思う	n	89	143	245	110	101	247	232	121
	%	72.4	70.4	78.8	59.8	63.5	76.7	73.4	66.1
3 あまり健康でない	N	12	37	41	44	19	36	57	32
	%	9.8	18.2	13.2	23.9	12.0	11.2	18.0	17.5
4 健康ではない	n	2	3	12	13	4	7	11	21
	%	1.6	1.5	3.9	7.1	2.5	2.2	3.5	11.5
無回答	n	0	0	1	0	0	0	0	1
	%	0	0	0.3	0	0	0	0	0.6
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

1 2) 8020 運動の認知

8020 運動を知っていると回答した者は男性の 30.1% から 46.8% であり、一方、女性では 29.5% から 67.7% であった (表 1 6)。全体では、47.3% (852 名) の方が、8020 運動を知っていると回答した。

表 1 6 8020 運動の認知

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
はい	n	37	95	134	62	62	194	214	54
	%	30.1	46.8	43.1	33.7	39.0	60.3	67.7	29.5
いいえ	n	86	108	175	117	97	128	101	123
	%	69.9	53.2	56.3	63.6	61.0	39.8	32.0	67.2
無回答	n	0	0	2	5	0	0	1	6
	%	0	0	0.6	2.7	0	0	0.3	3.3
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

1 3) 口腔清掃状況と肺炎の罹患に関する認知

口腔の不衛生が肺炎を引き起こしやすいことを知っているとは回答した者は男性では 26.8% から 54.9% であり、80-84 歳で最も多くみられ、一方女性では 35.2% から 64.6% であり、60-64 歳で最も多くみられた (表 1 7)。

表 1 7 口腔清掃状況と肺炎の罹患に関する認知

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
はい	n	33	56	122	101	56	142	204	106
	%	26.8	27.6	39.2	54.9	35.2	44.1	64.6	57.9
いいえ	n	90	145	188	82	103	180	112	76
	%	73.2	71.4	60.5	44.6	64.8	55.9	35.4	41.5
無回答	n	0	2	1	1	0	0	0	1
	%	0	1.0	0.3	0.5	0	0	0	0.6
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

1 4) フッ化物の塗布を受けた者

14歳までの子どもがいると回答した1,190名（男性526名、女性664名）のうち、子どもがフッ化物塗布を受けたことがあると回答したのは、292名（24.5%）であった（表18）。

表18 フッ化物の塗布を受けた者の割合

		男性	女性	総数
はい	n	91	201	292
	%	17.3	30.3	24.5
いいえ	n	47	28	75
	%	8.9	4.2	6.3
わからない	n	23	7	30
	%	4.4	1.1	2.5
無回答	n	365	428	793
	%	69.4	64.5	66.6
総数		526	664	1,190

1 5) 趣味の有無

趣味を有していると回答された者は、男性で約66～89%、女性で約57～83%認められ、若い世代ほど趣味を有していると回答された者が多かった（表19）。

表19 趣味の有無

		男性				女性			
		20-24	40-44	60-64	80-84	20-24	40-44	60-64	80-84
はい	n	109	157	231	122	131	224	224	104
	%	88.6	77.3	74.3	66.3	82.4	69.6	70.9	56.8
いいえ	n	12	45	73	56	28	96	84	66
	%	9.8	22.2	23.5	30.4	17.6	29.8	26.6	36.1
無回答	n	2	1	7	6	0	2	8	13
	%	1.6	0.5	2.3	3.3	0	0.6	2.5	7.1
総数		123	203	311	184	159	322	316	183

4. 口腔内状況

1) う蝕有病者率と処置状況

無歯顎者1名を除く279名のうち、う蝕有病者は268人、う蝕有病者率は96.4%であった。その処置状況として、処置完了の者は68.1%、処置歯・未処置歯を併有する者は27.2%、未処置のみを有する者は1.1%であった(表20)。

未処置歯を有する人の割合は、40-44歳では22.7%(22名)、40歳の者では0%(0/2名)、60-64歳では27.0%(30名)、60歳の者では33.3%(2/6名)であった。

表20 処置状況別う蝕有病者の人数とその割合

	年齢層	総数	う蝕のない者 (%)	処置完了の者 (%)	処置歯・未処置歯 を併有する者(%)	未処置歯を 有する者(%)
男性	20-24	17	3 (17.7)	6 (35.3)	7 (41.2)	1 (5.9)
	40-44	30	0	20 (66.7)	10 (33.3)	0
	60-64	60	0	41 (68.3)	18 (30.0)	1 (1.7)
	80-84	18	1 (5.3)	13 (68.4)	5 (26.3)	0
女性	20-24	23	5 (21.7)	10 (43.5)	7 (30.4)	1 (4.4)
	40-44	67	0	55 (82.1)	12 (17.9)	0
	60-64	51	0	40 (78.4)	11 (21.6)	0
	80-84	12	1 (8.3)	5 (41.7)	6 (50.0)	0
総数		279	10	190	76	3
割合	%		3.6	68.1	27.2	1.1

(無歯顎者1名を除く)

2) 一人平均う蝕数 (DMFT)

一人平均う蝕数 (DMFT) を性・年齢層別に示す(表21)。年齢が増すにしたがって増加し、20-24歳では5.4歯、40-44歳では12.4歯、60-64歳で14.9歯、80-84歳で20.3歯であった。

表21 1人平均DMF歯数 (DMFT指数) 年齢層別

		総数	う蝕経験 (DMFT)	未処置歯 (DT)	喪失歯 (MT)	処置歯 (FT)
男性	20-24	17	6.1 (6.3)	1.9 (3.0)	0.1 (0.2)	4.1 (4.8)
	40-44	30	11.1 (5.8)	0.8 (1.4)	0.1 (0.2)	10.3 (6.2)
	60-64	60	14.1 (6.8)	1.0 (2.7)	2.3 (3.5)	10.8 (6.1)
	80-84	20	20.6 (7.5)	0.8 (1.5)	7.9 (8.2)	12.0 (7.5)
女性	20-24	23	4.9 (5.1)	1.2 (2.1)	0	3.7 (4.8)
	40-44	67	13.0 (5.2)	0.2 (0.4)	0.2 (0.6)	12.7 (5.1)
	60-64	51	15.7 (4.9)	0.4 (0.8)	1.9 (2.3)	13.5 (4.5)
	80-84	12	19.7 (6.0)	0.8 (1.0)	7.7 (6.4)	11.3 (4.9)
全体	20-24	40	5.4 (5.6)	1.5 (2.5)	- (-)	3.9 (4.8)
	40-44	97	12.4 (5.4)	0.4 (0.9)	0.1 (0.5)	11.9 (5.5)

60-64	111	14.9 (6.1)	0.7 (2.1)	2.1 (3.0)	12.0 (5.5)
80-84	32	20.3 (6.9)	0.8 (1.3)	7.8 (7.5)	11.7 (6.5)

(単位：歯)

() 内に標準偏差を示す。

注1) DT : Decayed teeth の略 : 未処置歯

2) MI : Missing teeth の略 : 喪失歯

3) FT : Filled teeth の略 : 処置歯

4) DMF 歯数 : D+M+F

3) 喪失歯

性・年齢層別一人当たり平均の喪失歯数を示す(図4)。男女ともに40-44歳まで平均喪失歯は1歯未満であったが、60-64歳では約2歯程度であり、80-84歳において約8歯程度であった(表22、図4)。

表22 一人当たり平均喪失歯数

	年齢層	総数	平均喪失歯数	標準偏差
男性	20-24	17	0.06	0.24
	40-44	30	0.03	0.18
	60-64	60	2.3	3.53
	80-84	20	7.9	8.16
女性	20-24	23	0	0
	40-44	67	0.16	0.59
	60-64	51	1.9	2.26
	80-84	12	7.7	6.44
全体	20-24	40	0.03	0.16
	40-44	97	0.12	0.51
	60-64	111	2.1	3.00
	80-84	32	7.8	7.45

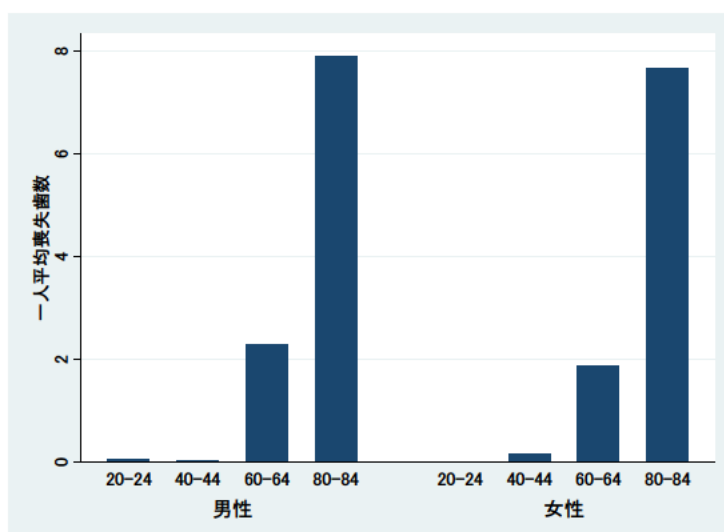


図4 性・年齢層別一人当たり平均喪失歯数

3-1) 喪失歯のない人の割合

喪失歯のない人の割合は全体で、20-24歳では97.5%、40-44歳では91.8%であるが、60-64歳では36.9%、80-84歳では9.4%であり、60-64歳で急激に減少していた(表23)。男女間において、その傾向に大きな違いを認めなかった。40歳では100%(2/2名中)であった。

表23 喪失歯のない人の割合

		総数	喪失歯のない者の 人数	喪失歯のない者の 割合(%)
男性	20-24	17	16	94.1
	40-44	30	29	96.7
	60-64	60	22	36.7
	80-84	20	3	15.0
女性	20-24	23	23	100
	40-44	67	60	89.6
	60-64	51	19	37.3
	80-84	12	0	0
全体	20-24	40	39	97.5
	40-44	97	89	91.8
	60-64	111	41	36.9
	80-84	32	3	9.4

4) 20歯以上自分の歯を有する人の割合

20歯以上自分の歯を有する人の割合は、20-24歳、40-44歳ではそれぞれ100%であったが、60-64歳では95.5%であり、80-84歳では65.6%であった。男女間において、この傾向に大きな違いはなかった(表24、図5)。

表24 20歯以上自分の歯を有する人の割合

	年齢層	総数	20歯以上ある 者の人数	20歯以上ある 者の割合(%)
男性	20-24	17	17	100
	40-44	30	30	100
	60-64	60	56	93.3
	80-84	20	13	65.0
女性	20-24	23	23	100
	40-44	67	67	100
	60-64	51	50	98.0
	80-84	12	8	66.7
全体	20-24	40	40	100
	40-44	97	97	100
	60-64	111	106	95.5
	80-84	32	21	65.6

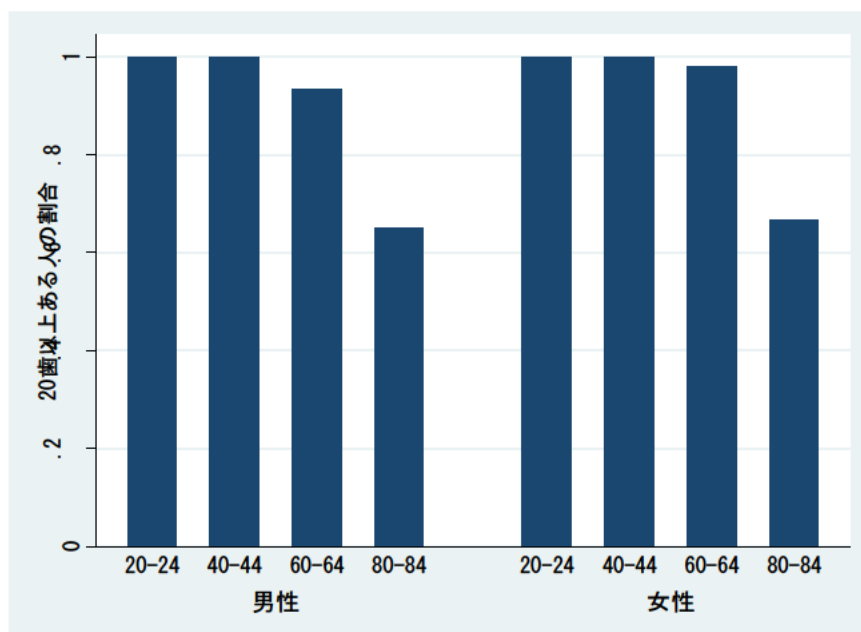


図5 性・年齢層別 20 歯以上ある人の割合

5) 24 歯以上自分の歯を有する人の割合

24 歯以上自分の歯を有する人の割合は、20-24 歳、40-44 歳ではそれぞれ 100% であったが、60-64 歳では 81.1% であり、80-84 歳では 31.3% であった。男女間において、この傾向に大きな違いはなかった（表 2 5、図 6）。60 歳で 24 歯以上自分の歯を有する人の割合は 100%（6/6 名中）であった。

表 2 5 24 歯以上自分の歯を有する人の割合

	年齢層	総数	24 歯以上ある者の人数	24 歯以上ある者の割合 (%)
男性	20-24	17	17	100
	40-44	30	30	100
	60-64	60	49	81.7
	80-84	20	7	35.0
女性	20-24	23	23	100
	40-44	67	67	100
	60-64	51	41	80.4
	80-84	12	3	25.0
全体	20-24	40	40	100
	40-44	97	97	100
	60-64	111	90	81.1
	80-84	32	10	31.3

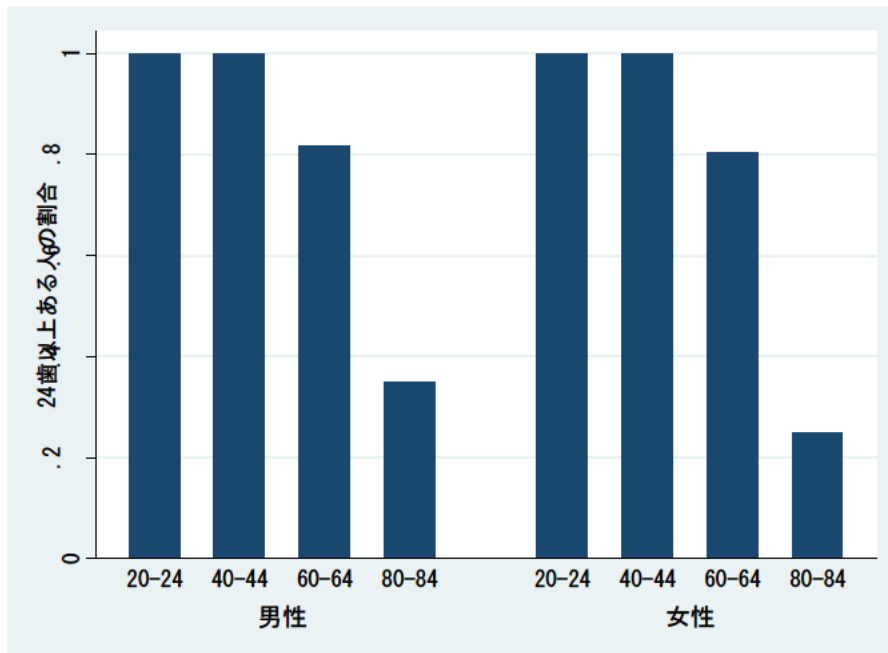


図6 性・年齢層別 24 歯以上ある人の割合

6) 歯肉出血のある人の割合

歯肉出血のある人の割合は、20-24 歳で 32.5%、40-44 歳で 35.1%、60-64 歳で 47.8%、80-84 歳で 53.1%であった（表 2 6、図 7）。

表 2 6 歯肉出血のある人の割合

	年齢層	総数	健全 (%)	出血あり (%)	該当歯なし (%)
男性	20-24	17	10 (58.8)	7 (41.2)	0
	40-44	30	20 (66.7)	10 (33.3)	0
	60-64	60	32 (53.3)	28 (46.7)	0
	80-84	20	9 (45.0)	9 (45.0)	2 (10.0)
女性	20-24	23	17 (73.9)	6 (26.1)	0
	40-44	67	43 (64.2)	24 (35.8)	0
	60-64	51	26 (51.0)	25 (49.0)	0
	80-84	12	4 (33.3)	8 (66.7)	0
全体	20-24	40	27 (67.5)	13 (32.5)	0
	40-44	97	63 (65.0)	34 (35.1)	0
	60-64	111	58 (52.3)	53 (47.8)	0
	80-84	32	13 (40.6)	17 (53.1)	2 (6.3)

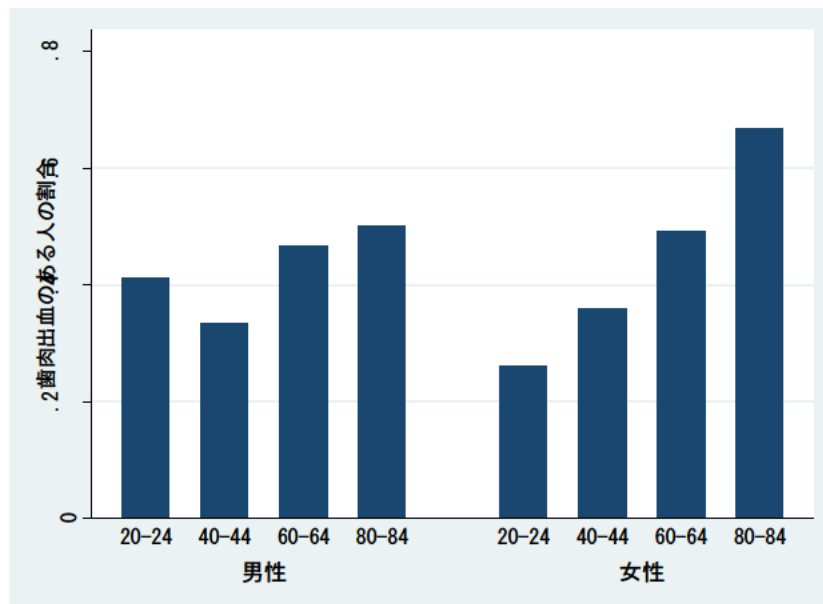


図7 性・年齢層別歯肉出血のある人の割合

7) 歯周ポケットの内訳

20-24歳および40-44歳で歯周ポケットがなく健全な人はそれぞれ、82.5%および71.1%と大半を占めた(表27、図8)。一方60-64歳および80-84歳では、ポケット4~5mmを有する人はそれぞれ47.8%および46.9%、6mm以上を有する人がそれぞれ16.2%、25.0%であった。

進行した歯周疾患(ポケット4~5mm以上)を有する人の割合は、40-44歳で28.9%(28名)、60-64歳で64.0%(71名)であった。

表27 歯周ポケットの内訳

	年齢層	総数	健全 (%)	4~5 mm (%)	6 mm 以上 (%)	該当歯なし (%)
男性	20-24	17	16 (94.1)	0	1 (5.9)	0
	40-44	30	18 (60.0)	10 (33.3)	2 (6.7)	0
	60-64	60	19 (31.7)	30 (50.0)	11 (18.3)	0
	80-84	20	4 (20.0)	8 (40.0)	6 (30.0)	2 (10.0)
女性	20-24	23	17 (73.9)	5 (21.7)	1 (4.4)	0
	40-44	67	51 (76.1)	13 (19.4)	3 (4.5)	0
	60-64	51	21 (41.2)	23 (45.1)	7 (13.7)	0
	80-84	12	3 (25.0)	7 (58.3)	2 (16.7)	0
全体	20-24	40	33 (82.5)	5 (12.5)	2 (5.0)	0
	40-44	97	69 (71.1)	23 (23.7)	5 (5.2)	0
	60-64	111	40 (36.0)	53 (47.8)	18 (16.2)	0
	80-84	32	7 (21.9)	15 (46.9)	8 (25.0)	2 (6.3)

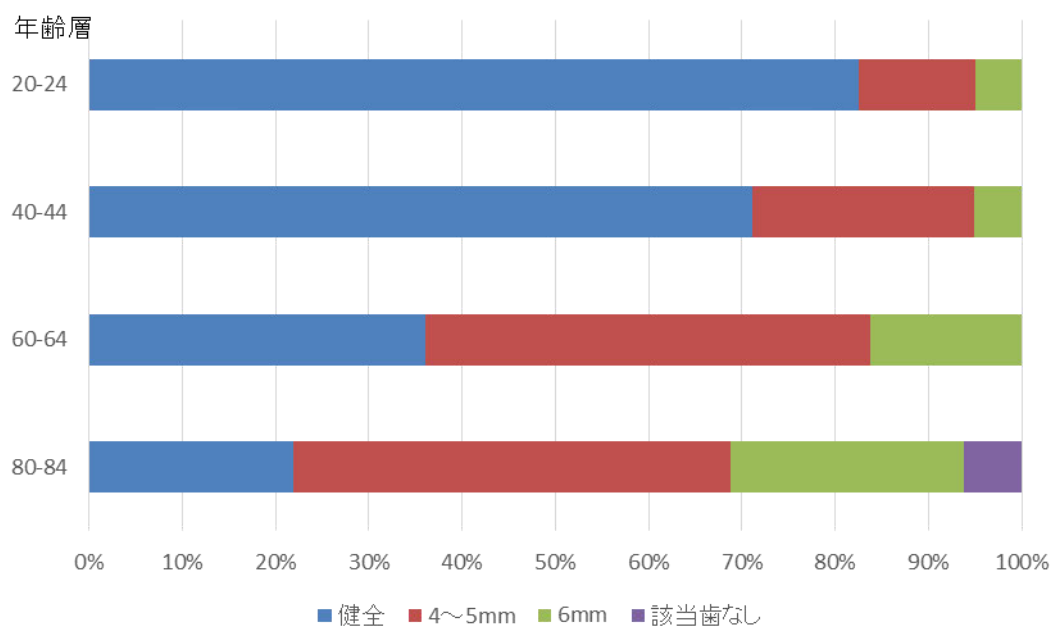


図8 歯周ポケットの内訳

Ⅲ 診査基準

本調査は、次に掲げる基準に従って診査した。

(1) 現在歯

ア 現在歯は、(ア) 健全歯 (イ) 未処置歯 (ウ) 処置歯の3種類に分類する。現在歯とは、歯の全部または一部が口腔に現われているものをいう。

イ 過剰歯は含めないこととし、癒合歯は1歯として取り扱い、その場合の歯種名は上位歯種名をもってこれにあてる。

ウ 現在歯の診査は、視診を原則とするが、十分な照明が得られない等の診査環境の場合には、レジン充填等の確認等に際し、適宜C P Iプローベを用いるか、歯質を痛めることが無いよう充分注意して歯科用探針を用いること。

(ア) 健全歯

健全歯とは、う蝕あるいは歯科的処置の認められないもの（以下に記す未処置歯及び処置歯の項に該当しないもの）をいう。

- 咬耗、摩耗、着色、外傷、酸蝕症、発育不全、歯周炎、形態異常、エナメル質形成不全等の歯であっても、それとう蝕のないものは健全歯とする。

(注) 歯質の変化がなく、単に小窩裂溝が黒褐色に着色しているもの、平滑面で表面的に淡褐色の着色を認めるが歯質は透明で滑沢なもの、エナメル質形成不全と考えられるものなどは、すべて健全歯とする。

- 健全歯のうち、脱灰、再石灰化等に関連し白濁、白斑、着色部が認められる歯は、白濁・白斑・着色歯とする。

(注) 白濁、白斑、着色歯にはテトラサイクリン、ニコチン、金属、外来性色素等による着色等は含まないものとする。

- 健全歯を予防填塞の有無により、次のように分類する。

a. 健全歯 0

予防填塞（フィッシャー・シーラント）がされていない歯

b. 健全歯 t

予防填塞（フィッシャー・シーラント）がされている歯

(注) 予防填塞と処置歯との鑑別を行う場合、一般的に予防填塞はレジン充填に比べ

- ①色調が異なること
- ②填塞物の辺縁の形態が裂溝状で細く、不揃いなこと
- ③填塞物表面の粗ざう感が少ないことが多いことを考慮する。

(イ) 未処置歯

- a. 軽度う蝕 (Ci: Caries incipient)
- b. 重度う蝕 (Ch: Caries high grade)

(注) 1. 同一歯の2か所以上にう蝕のある場合には、病状の進んでいる方をとること

2. フッ化ジアンミン銀 (サホライド) のみを塗付したと考えられるは未処置歯とする。

- a 軽度う蝕 (Ci)

歯冠部のう蝕については、明らかなう窩、脱灰・侵食されたエナメル質、軟化底、軟化壁が探知できる小窩裂溝、平滑面の病変をう蝕とする。また、根面部のう蝕については、病変部をCPIプローブで触診し、ソフト感あるいはざらついた感じがあればう蝕とする。

- b 重度う蝕 (Ch)

重度う蝕とは、歯髄まで病変が波及しているものまたは、それ以上に病変が進行しているものをいう。

(ウ) 処置歯

- 処置歯とは歯の一部または全部に充てん、クラウン等を施しているものをいう。
- 歯周炎の固定装置、矯正装置、矯正後の保定装置、保隙装置および骨折副木装置は含まれない。
- 治療が完了していない歯並びに処置歯でも2次う蝕または他の歯面等で未処置う蝕が認められる場合、未処置歯として取り扱う。
- 予防てん塞 (フィッシャー・シーラント) の施してある歯については、可能な限り問診して、う蝕のない歯に予防てん塞を施したものは健全歯 t とするが、明らかにう蝕のあった歯にてん塞したものは処置歯とする。
- 根面板は処置歯とする。

- a. 充てん歯

セメント充てん、レジン充てん、アマルガム充てん、ポーセレンインレー、合金 (インレー、アンレーおよび3/4冠を含む) 等により、充てんまたは一部歯冠修復しているものはこれに含める。架工義歯の支台歯であっても、一部修復しているものはこれに含める。

- b. クラウン等

全部鑄造冠、陶材焼付鑄造冠、レジン前装鑄造冠、ジャケットクラウン等、歯冠のすべてを修復しているものをいい、架工義歯の支台歯であってもこれに含める。

(2) 喪失歯

抜去または脱落により喪失した永久歯をいう。ただし、智歯は含めない。

- (注) ・ 受診者の年齢を考慮すること。
・ インプラントは喪失歯とする。

(3) 補綴の状況

永久歯の欠損部における補綴物装着の有無を診査する。補綴物は、架工義歯、部分床義歯および全部床義歯に分類する。補綴物にクラスプ等による鉤歯がある場合は記録する。架工義歯については、支台歯を診査する。部分床義歯および全部床義歯については日常使用しているものであれば、診査時に装着していてもよい。また、一部破損している、あるいは欠損部の状況と一致していないものは装着していないものとする。

(4) 歯肉の状況

76	1	67
76	1	67

の各歯の歯肉の状況を、WHOのC P I (Community Periodontal Index, 地域歯周疾患指数)によりC P Iプローブを用いて上顎、下顎とも頬側面(近・遠心)及び舌側面(近・遠心)の4点について以下の基準で診査し、最高コード値を記入する。ただし、同顎、同側の第1、第2大臼歯については、両歯の最高点を記入する。

C P I の診断基準

	コード	所見	判定基準
歯肉出血	0	健全	以下の所見が認められない
	1	出血あり	プロービング後 10~30 秒以内に出血が認められる
	9	除外歯	プロービングが出来ない歯 (例: 根の露出が根尖に及ぶ)
	X	該当する歯なし	
歯周ポケット	0	健全	以下の所見がすべて認められない
	1	4~5mm に達するポケット	プローブの黒い部分に歯肉炎が位置する
	2	6mm を超えるポケット	プローブの黒い部分が見えなくなる
	9	除外歯	プロービングが出来ない歯 (例: 根の露出が根尖に及ぶ)
	X	該当する歯なし	

- 対象中切歯の欠損により診査が不能な際は、反対側同名歯を診査する。

- プロービングは、C P Iプローベ先端の球を歯の表面に沿って滑らせる程度の軽い力で操作し、遠心の接触点直下から、やさしく上下に動かしながら近心接触点直下まで移動させる。

(5) かみあわせの状況

左右臼歯部について、必要に応じてミラー等を用いて、義歯を外した状態で、上下顎臼歯部（4番から8番）同士の接触の有無について診査を行い、一点でも接触があれば接触があるものとして判断する。

冠、架工義歯およびインプラントにおける接触は、かみあわせによる接触があるものとする。なお、著しい歯冠の崩壊が認められる歯牙における接触については、かみあわせによる接触がないものとして扱うものとする。また、本診査において歯牙の動揺度は考慮せず、接触の有無のみを診査する。